

平成 14 年 8 月 23 日

ナスダック・ジャパン市場



平成 14 年 9 月期第 3 四半期の連結業績等の概況

会 社 名 株式会社ネクシィーズ
コード番号 4346
(URL <http://www.nexyz.co.jp/>)
本社所在地 東京都渋谷区桜丘町 20 番 1 号
責任者役職名
常務取締役 管理本部長
氏名 松井 康弘
TEL (03) 5459 - 7444

1 業績

(1) 平成 14 年 9 月期第 3 四半期 (平成 13 年 10 月 1 日 ~ 平成 14 年 6 月 30 日) の業績

連結業績

	平成 14 年 9 月期 第 3 四半期累計	対前年同 期増減率	平成 13 年 9 月期 第 3 四半期累計	参 考 前期 (通期)
売 上 高	百万円 5,072	%	百万円	百万円 5,596
営 業 利 益	262			116
経 常 利 益	225			123

(注) 1.前年同四半期の業績については、四半期決算を行なっておりませんので記載を省略しております。

2.当四半期の財務数値については、監査法人の監査を受けておりません。

3.記載金額は、百万円未満を切り捨てて記載しております。

単体業績

	平成 14 年 9 月期 第 3 四半期累計	対前年同 期増減率	平成 13 年 9 月期 第 3 四半期累計	参 考 前期 (通期)
売 上 高	百万円 4,848	%	百万円	百万円 5,566
営 業 利 益	250			226
経 常 利 益	238			239

(注) 1.前年同四半期の業績については、四半期決算を行なっておりませんので記載を省略しております。

2.当四半期の財務数値については、監査法人の監査を受けておりません。

3.記載金額は、百万円未満を切り捨てて記載しております。

(2) 事業別の売上高内訳

	平成14年9月期 第3四半期累計		対前年同期増減率	平成13年9月期 第3四半期累計		参 考 前期(通期)	
	金 額	構成比		金 額	構成比	金額	構成比
情報通信サービス 関連事業	百万円 3,409	% 67.2	%	百万円	%	百万円 4,919	% 87.9
マーケティング事業	1,658	32.7				672	12.0
その他事業	5	0.1				5	0.1
計	5,072	100.0				5,596	100.0

(注) 1.前年同四半期の業績については、四半期決算を行っておりませんので記載を省略しております。

2.当四半期の財務数値については、監査法人の監査を受けておりません。

3.記載金額は、百万円未満を切り捨てて記載しております。

(3) 主な資産・負債の変動について

項 目	平成14年9月期 第3四半期末	増減額	前期末
(資 産)	百万円	百万円	百万円
現金及び預金	1,076	685	1,761
売掛金	1,780	560	1,219
棚卸資産	377	331	46
前払費用	218	156	62
レンタル資産	189	105	294
(負 債)			
未払法人税等	14	77	92
長期借入金	440	146	587

(注) 1.項目ごとの増減額が総資産の1%を超えるものについて、記載しております。

2.当四半期の財務数値については、監査法人の監査を受けておりません。

3.記載金額は、百万円未満を切り捨てて記載しております。

2 業績の概況

当四半期（平成13年10月1日から平成14年6月30日）における日本経済は、一部には景気底入れの動きは見えたものの、依然として続く内需の低迷、雇用情勢の悪化等の状況から本格的な景気回復にはまだ時間を要するものと思われます。

衛星放送市場につきましては、5月末から日韓共催ワールドカップサッカーが開催され、無料放送を配信した「スカイパーフェクTV！」の加入者は急増、その総登録者数は323万人(注1)を突破しました。当社は6月3日に「スカイパーフェクTV！」の一次代理店契約を新たに締結しました。この契約により、より一層顧客本位のサービス提供（独自の番組パック提供）が可能となるため、収益及び継続コミッションの増加を見込んでおります。

BS放送においては、デジタル放送受信機器の市場価格が下落したことや前記ワールドカップサッカーの影響もあり、BSデジタル放送の普及環境は好転し、BSデジタル受信機出荷台数は134万台(注2)を超え、「WOWOW」デジタル放送の加入者も21万人(注3)を超えました。

また(株)有線ブロードネットワークスが提供するCSデジタル音楽放送(サウンドプラネット)の加入取次ぎも順調に推移しており、販売代理店の中でもトップクラスの実績を収めております。

認知度の向上、普及に伴う機器価格の低価格化等から、引続きCS・BS放送の需要は増加する環境にあり、一次代理店の強みを活かした魅力あるサービス展開により顧客の開拓に努め、日本最大のデジタル・ディストリビューターの地位を確固たるものとしてゆきます。

広告業界につきましては、全体として不況の影響で、企業が負担する広告費の出費は抑制傾向にあります。一方、当社が展開するマーケティング事業は『懸賞キャンペーンハガキ広告』に代表されるように、膨大な費用のかかるマスメディア広告との比較で、より低価格で、より効果的に顧客意識を抽出することができる点に特徴があるため、より販売につながる費用投下が要求される現環境下においても、受注は順調に推移しております。

（注1）：2002年6月末時点の(株)スカイパーフェクト・コミュニケーションズの集計値を引用

（注2）：2002年6月末時点のJEITA（社）電子情報技術産業協会の調査値を引用

（注3）：2002年6月末時点の(株)WOWOWの集計値を引用

この結果、当四半期（平成13年10月1日から平成14年6月30日まで）の連結売上高は5,072百万円、連結営業利益は262百万円、連結経常利益は225百万円となりました。

以下、各事業別の状況を説明いたします。

（情報通信サービス関連事業）

前期より推進してまいりました当社の一次代理店化の施策が効果を奏したことや、「衛星放送サービス」加入契約の拡大に伴い、情報通信サービス関連事業の売上高は、3,409百万円となりました。また新たに、6月3日に「スカイパーフェクTV！」の一次代理店契約を締結したことにより今後も安定した収益や継続コミッションの増加が見込めます。

（マーケティング事業）

新規事業としての応募用紙広告業務やプロモーション業務が順調に推移、拡大しておりマーケティング事業の売上高は1,658百万円となりました。

（その他事業）

情報通信機器の会員制レンタル事業等のスタートに伴い、売上高は5百万円となりました。

なお、前連結会計期間（平成12年10月1日から平成13年9月30日まで）においては、四半期決算を実施していないため、前年同期間との比較分析は行っておりません。

3 当期の見通し

平成 14 年 5 月 24 日に発表しております、平成 14 年 9 月期（平成 13 年 10 月 1 日から平成 14 年 9 月 30 日まで）における当社連結及び個別の業績の見通しにつきましては、ほぼ計画どおりで推移しており、現段階で変更はないと考えております。